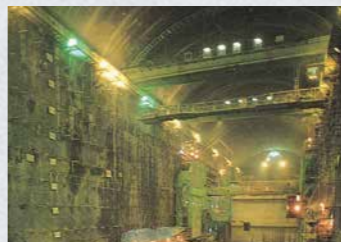


7余笹川の氾濫。約2千人が避難を余儀なくされた 8開学したての那須大学でキャンパスライフを楽しむ学生 9完成した七ツ岩吊橋を渡り渓谷美を楽しむ 10合併記念式典で発表された市の新しいロゴ。豊かな自然が表現されている 11廃校となった小学校を活用し、田舎ランド鴨内がオープン



1廃線した東野鉄道跡地に完成したぼっぼ通り 2ふれあい橋にはいわゆる「ふるさと創生1億円」が充てられた 3豊かな自然を楽しむデジタルセンター 4山間部の地下300mに建設中の塩原発電所 56活性化の拠点として、道の駅が次々とオープン 5アグリパル塩原、6明治の森・黒磯

- 平成2年 バブル崩壊 スーパーファミコン
- 平成4年 学校週5日制導入 毛利衛さん宇宙へ
- 平成6年 コギャル流行
- 平成7年 阪神淡路大震災 地下鉄サリン事件
- 平成8年 たまごっち登場 プリクラ流行
- 平成9年 ポケモンブーム 英タイアナ妃事事故死
- 平成10年 長野冬季五輪開催
- 平成11年 2000年問題 だんご3兄弟流行
- 平成12年 新紙幣2千円札発行
- 平成13年 21世紀始まる 米同時多発テロ事件
- 平成15年 イラク戦争開戦
- 平成16年 新潟県中越地震発生
- 平成17年 愛・地球博開催
- 平成2年 西那須野庁舎完成
- 平成4年 ぼっぼ通り全線開通
- 平成6年 塩原温泉ビジターセンター開館
- 平成7年 ハロープラザ塩原開館
- 平成8年 那須野巻狩800年祭
- 平成9年 西那須野町と滑川市が姉妹都市締結
- 平成10年 アグリパル塩原オープン
- 平成11年 健康長寿センター開館
- 平成12年 那須大学開校
- 平成13年 七ツ岩吊橋完成
- 平成15年 合併協定書調印式
- 平成17年 山ゆりの吊橋完成
- 平成18年 那須野が原博物館開館
- 平成19年 黒磯市、西那須野町、塩原町合併。那須塩原市誕生
- 平成20年 田舎ランド鴨内完成

西那須野開拓120周年

開拓120周年を記念し創作された「那須野の大地」。初演から演出を手掛ける印南貞人さんが作中に込めた思いを紹介する。



那須野の大地 演出
さだと
印南 貞人 さん
(東京芸術座)



名もなき庶民の開拓物語を創作してほしいとの依頼を受け、那須野の大地に関わりました。心掛けたのは、歴史を伝える教訓めいたものではなく、誰が観ても楽しいものにすること。笑えるところでは笑えて、泣けるところでは泣ける。そんな内容に仕上がっていると思います。劇を演じる劇団なすのは、芝居経験がない市民が集う劇団なので、稽古は大変で、夏休み期間は毎日稽古に没頭します。人前で話すことさえできなかった子どもたちが、短期間に成長する姿を見るのがやりの一つです。

見てほしいのは、子どもを持つ親の世代。最近、地域の歴史を知らない人が増えている気がします。荒野の石を拾い、鍬をふるって、水をくむ。そして、種をまき、生きる糧をから生み出したご先祖たち。この芝居で地域の歴史を知り、

自分にもできることがあると知ってほしいです。そして大切なのは、物事を自分の頭で考え、判断すること。言われたからとか、周囲にあわせてやることには価値がありません。先人が切り拓いた那須野が原をどういう地域にしていけるか。次の世代が自分たちでよく考えて、次の時代に引き継いでいってほしいと思います。

各地の市民劇団の中でも、劇団なすのは年齢層が多様。現在も4~71歳までの50人が集い、これまで延べ140人ほどの劇団員が参加しました。芝居を作り上げるために濃密な時間をともにした仲間が、今はそれぞれ自分の人生を生きている。20年前に子役だった子どもが、親になって観客として来てくれる。そうした人のつながりが、私の財産です。

※劇団なすのは劇団員を募集しています。詳しくは14ページを確認してください。

那須野巻狩800年

今年で24回を迎える那須野巻狩まつりが、今の形になったのは平成6年。その立ち上げを知る平山忠さんに話を聞いた。

明治以降から発展し、歴史が浅い黒磯市。一方、青森のねぶたや仙台の七夕など、伝統ある祭りには多くの方が訪れます。「この地にも歴史に基づくお祭りを」。その声を受け、源頼朝による1193年の那須野巻狩が着目されました。

新たに鍋や太鼓を制作したり、楽曲を創作したりと挑戦の連続で、多忙を極めた準備期間。しかし、前向きに仲間と手を取り合い、たくさんの人に支えられたので、何とか苦境を乗り越えられました。延べ来場者数15万人という大盛況で祭りを終えた時、「よくやった」という達成感と、仲間への感謝の気持ちが溢れました。

「巻狩」には新たな名物を作ることで、祭りの日だけでなく



年間を通じて地域を盛り上げようという意図が込められています。飲食店で巻狩鍋を提供したり、旅館へ新たな客を呼び込んだりといった、商業の活性化が目的なのです。しかし、時代の流れには逆らえず、この地にも大型店とコンビニが台頭。かつて地域ごとにあった日用品店は衰退し、買い物をしながら、お店や近所の人と会話を楽しむといった風景は姿を消しました。利便性と気軽さが重視され、人のつながりが希薄になったのが平成の時代だと感じます。

どんな小さな規模でも良いので、人と人との交流が生まれるような行事が新しい時代にも続いてほしいです。人は一人では生きてはいけません。色んな人に支えられながら、人生を歩むものなのでから。



元 市商工会専務理事
(元 市職員)
ただし
平山 忠 さん